

しごき

第 10 号



1995年8月

日本野鳥の会三重県支部

感 動

昨年の夏は暑さにあえぎ、今年の夏は涼しさがいつまでも続く。太平洋の高気圧が弱く、大陸の高気圧の勢力が例年になく強いせいなのでしょう。今年は忘れたように暑さが顔を出し、また涼しさが続く異常な天候となりました。

いつまでも梅花がみられ、あっという間に桜が満開かと思えば葉桜に変化。杉、桧、椎、松、栗と続いて花粉が散ったその量は目を見張るばかりに歩道を黄色く染めていました。サツキやウツギの花は、普通5月中旬ごろが満開となるのに、今年は6月下旬に満開となり驚きました。満開の花にやって来るイシガケチョウは例年になく小型の個体が多いのにもびっくりしました。キンカンの白い花がやっと開花しはじめたのは7月16日、7月の土用の日には甘い香りをあたり一面にただよわせていました。

さて、自然界の野鳥にはどんな変化があったのでしょうか。ちょっと振り返ってみます。

私が住んでいる伊勢市宇治地区にあるお祓町通りでは、例年同じ巣で繁殖するツバメの姿がいくらか少ない感じであったり、アカショウビン、オオルリ、ホトトギスなどの声や姿をみる機会がきわめて少ないようでした。とくに、アオゲラはいつまでも縄張りを固定することができず、森の中をさまよい続けていました。また、いつもは春の前線通過の時に見られたアマツバメ、イワツバメ、ショウドウツバメが梅雨前線のもっとも盛んに活動した間、頻繁に観察され、その中にハリオアマツバメ、ヒメアマツバメが混じっていたこと、あまりの低空飛行で翼が空気を切るすさまじい音さえ感ずることができました。水田地帯ではかなりのアオサギを例年見ましたが、今年はいつもの若干羽しかカウントできなかったことも「どうして」という疑問と共に、それぞれ異なったさまざまな感動として残りました。

私が住んでいる近辺で見た自然界でした。

(7月末記す、すぎうら くにひこ、支部長)

目 次

特集 案内人入門	3~5
会員のページ	6~8
探鳥地マップ② 錫杖湖	9~10
パートウォッチング入門講座②	11
保護活動から	12
野鳥情報	13~15
探鳥会報告	16・17
お知らせ	18

今号の表紙

絵：平井正志

チュウサギ

Egretta intermedia

緑一色の水田に真っ白なサギ。夏のすばらしい色彩効果です。そのシラサギには、コサギやダイサギのほかにチュウサギの姿も見られます。体長はコサギより少し大きく、くちばしは夏羽では黒色でコサギより短く感じられます。また、目先の黄色いのも特徴です。

県内ではわりと普通に見られるチュウサギですが、環境庁レッドデータではR（希少種）とされています。

去る7月9日、県総合文化センターにおいて支部研修会が開催されました。今回は、前号でもお知らせしたとおり、本部から安西英明さんをお招きしての、探鳥会リーダー研修会となりました。題して、「バードウォッチング案内人入門」。今号の特集はそのレポートです。これで、あなたもバードウォッチング案内人！！

研修会は定刻より少し遅れて、9時25分に始まりました。野鳥の会としては珍しく立派な会場です。慣れないのか開会までに少し時間がかかってしまいました。進行役の事務局長も少し緊張気味です。

支部長のあいさつの後、いよいよ先生のあいさつと、自己紹介を受けました。先生はまず、帰りの電車の時刻を教えてくださいました。それまでは交流もできるとの積極的な姿勢の表明です。

「自分は、探鳥会を開くのも楽しいものだということを分かってもらうために来ました。探鳥会はこうしなければいけないということはありません。楽しく、やりがいを持ち、自分を生かしてやるのがよいのです。」

これで、緊張していた参加者はすこし気が楽になりました。

先生の first bird (きっかけ鳥～野鳥に関心を持つようになった最初の鳥をこういふそうです) はムクドリ。昆虫の標本づくりで絶望した安西少年は、隣家の柿の木に来た鳥に目が向いたのでした。図鑑を買ってもらい初めて知ったのがムクドリだったのです。

そうして、どんどん鳥の名前を知っていった安西さんでしたが、どうしても図鑑で分からない鳥があり、その名前を知りたくて野鳥の会に教えてもらいに行きました。それは、ヒヨドリでしたが、その図鑑ではなんと腹部が黄色く塗られていたのです。これが野鳥の会に入ったきっかけです。

サラリーマンをしている時、都内の公園でオオルリがいるのに、だれも見えていないのに気づき、一般向けの探鳥会を企画実行した。その探鳥会の時、下見ではいたインヒヨドリが姿を見せず困ってしまった安西さんでしたが、参加者の一人が、ヒヨドリが美しいと感動してくれたのです。

「これで目が覚めました。知識・経験が増えると、感性が落ちるのです。」

先生はこれをきっかけにプロになりました。

講師プロフィール

安西英明 (あんざいひであき)

日本野鳥の会普及部・環境教育コーディネーター。

1956年、東京に生まれる。小学校6年生の時入会。

サラリーマン生活を経て、1981年苫小牧ウトナイ湖サンクチュアリー-のレンジャーになる。

その後、本部サンクチュアリー-室室長として、レンジャーのまとめ役をしていたが、1993年から現職。野鳥を通した自然解説・環境教育の普及に力を注いでいる。

続いて参加者の自己紹介となり、案内人をしてよかったこと、困ったこと、また、経験のない人は、どんな案内人になりたいかということを含めて紹介しました。参加者は24名で、案内人をしていて人に鳥を見つけてもらえてよいなどという輩から、道案内人をしているという人、また、一体感が得られる探鳥会をやりたいとか、感性のあるリーダーになりたいというまじめな方まで、案内人としての経験の幅は広く、未経験の人も半数みえました。

講義はまず、こうした参加者の悩みや疑問に答える形ですすめられました。例えば、話術についての問題が出ましたが、これに対しては、「技術」が自分に合うかどうかは別問題ですという指摘があり、次のような話をしてくれました。

ウトナイ湖にいた時、レンジャーは一人であったので、慣れない土地で随分苦勞をしました。それを助けてくれたのはボランティアの人たちで、ことに経験の浅い人が参加者には喜ばれ効果を上げていました。本人が感動しているからおもしろいのです。探鳥会に初めて参加して、鳥は見られ

なかったけど雰囲気良かったので入会するという人もいます。一方、せっかく鳥を見つけて喜んでいる人に冷たい言葉で応じては、「死の宣告」になってしまいます。よいバードウォッチャーが必ずしもよい案内人とは限らないということです。

その後は、『あなたもバードウォッチング案内人』をテキストを使って、それに沿った形で講義がすすめられました。その中から一部を紹介いたします。

◆ どうして「野鳥」か

① 自然のパロメーターである

…食物連鎖の高次消費者であるため

② 人の身近にいる

…鳥類はほ乳類と共に高等動物ですが、ほ乳類は数が少なく基本的には夜行性で嗅覚で行動しています。これに比べて、鳥類は人の身近におり、一部を除いて昼行性で観察しやすく、視覚で判断していますので、ほ乳類としては例外的に目で判断する人間と感覚的な共通点があるといわれています。また、基本的に一夫一妻制であるので、人間に近いという人もいます。

さらに、野鳥そのものの魅力や、探鳥の楽しみが相まって、野鳥を通しての自然保護活動をすすめているのです。

◆ 地球にやさしくするために

「地球にやさしい暮らし」と言っているだけでは地球は救えません。いずれにしても地球に負荷を与えないわけには行きませんが、ゴルフなどのように、「楽しみ」で、負荷を与えているのは問題です。そういう意味では、探鳥は負荷の少ない娯楽といえます。「やさしく」あるためには相手を知ることが重要ですが、自然を知ることが守ることにつながります。つまり、探鳥を広めるだけで地球にやさしくなれるというわけです。

◆ 自然理解への道

環境教育の目標の3段階は、①自然に親しむ②自然を知る③自然を守る、ということですが、まず底辺である親しむ人を増やすことが重要です。どうやって親しんでもらうか。それは、知識ではありません。個々の知識より、自然の多様性、関連性、神秘性といった視点でアプローチすることが自然理解につながります。

このほか、案内人としての基本的な知識や様々な方法についても講義があり、またたく間に昼食となりました。



テキスト紹介

『あなたもバードウォッチング案内人——自然解説・環境教育の実践』

著者：日本野鳥の会レン

ジャー（共著）

発行：財団法人 日本野鳥の会（1992年）

定価：1,300円

著者の一人である安西さんは「鳥、自然の好きな人なら誰でも案内人になれるということを書きたかった」と言ってみえました。バードウォッチングの材料満載の好著です。

午後は、総合文化センター周辺をフィールドにして、模擬探鳥会が開かれました。コースは最近宅地開発された荒地や、残された池でした。探鳥にはあまり向かないと思われる季節でもあったのですが、先生は其中でも実に多くの材料を引き出し、その懐の深さには驚かされてしまいました。最初にカラスを観察しましたが、この時期は幼鳥の姿が見られるので、その見分けを楽しみました。私は、幼鳥は口の中が赤いというのを初めて知りました。また、プトやボソの幼鳥の鳴き声を聞き、その特徴について解説していただきました。

次は、先生に縁の深いムクドリです。うまい具合に成幼入り混じった小群がいたので、雌雄や成幼の見分けを行いました。これは初心者には勧められませんが、ベテラン向きには使えるプログラムです。池では、2羽のカイツブリがさかんに追いかける動作をしていましたので、その意味を皆で話し合いました。植物や、昆虫についても楽しみました。

先生にとっては慣れないフィールドであったと思いますが、即席ながらまとまった探鳥会にされたのはさすがでした。参加者の出してくる事柄をうまく使って、解説型にならないよう、常に参加者が中心になるように留意されていたと思います。

再び会議室に戻って、探鳥会のまとめを行いました。すぐにまとめ方の講義となりました。

探鳥会は終わり方が重要で、今後の楽しみ方のヒントになるようなまとめをする必要があります。

「鳥合わせ」は、まとめて話すよい機会なので重要です。その探鳥会のテーマに沿って行うようにします。例えば、環境や、大きさなどの条件ごとに鳥名を挙げてもらおうと、環境に対する理解や、自然保護に結びつきやすいのです。

なお、探鳥会の時間について参加者から質問がありました。 「後ろ髪がキンクロハジロ」 (!) なのがよいということでした。

さて、研修会も終りに近づきました。次には、事前に参加者から出されていた問いに答える形で、いろんなことを話していただきました。語録です。

◇自分のフィールドを持て。そこでは誰でも世界一のウォッチャーになれる。

◇自然界の仕組みのおもしろさ、大切さを伝えるには、その探鳥会で出会った鳥から具体的に話していくのがよい。探鳥会は生態学の講義ではないのだから。

◇いろいろなレベルの人がいるときは、最大公約数的に行うが、上級の人には解説の側に回ってもらうようにする。

◇分類については分からないことも多く、最近やっと分かってきたことも多い。例えば、コンドルはタカでなくペリカンに近い。だから、分からないことが多いことを話した方がよい。

◇自然保護とどのように関わっていけばよいか〜「相手を知ることから始めよう。」と呼びかけよう。そして、フィールドマナーを徹底しよう。

いよいよ研修会も最後となりました。先生から、全体のまとめとして次のようなお話がありました。

「還元」を前提にすると、認識は深まり、感動は大きくなるのです。つまり、人に説明しようとする、「分かっているようで分かっていない」ことが分かります。そして、感動を人に伝えることで、感動がより大きくなるのです。人も鳥も不特定多数ですので大変ですが、その分案内人の喜びは大きいのです。

研修会の後は座談会となり、先生が持参された羽根のコレクションから、さまざまなおもしろいお話を聞かせていただきました。先生の熱意により、有意義で楽しい研修会になったと思います。最後に先生に盛大な拍手を送り感謝の念を表しました。

参加者の声 (事務局への手紙から)

先日の研修会では大変勉強になりました。本当にありがとうございました。
初めて案内人をするわけですが、研修会で得たものを生かせるよう頑張りたいと思います。
今後ともよろしくお願いします。(中村みつ子さん)

我田引水の探鳥会

植原 慕

探鳥会を始めたきっかけは、数年前亀山市の町づくり推進委員会が開いた探鳥会に、野登山を案内したことに始まる。終了後参加者から、「日曜日は夫が家にいて出にくいから、平日に探鳥会を開いてほしい」という電話があった。その頃は定年まで約3年あり、平日にはお引き受けできないので、退職まで待っていただくようお願いしていた。

退職の日が半年ほどに迫ったころ、仕事に未練もあり、再就職も考えた。反面、不景気の時に定年退職者を使う所などないし、日頃の自分の持論に矛盾するとも思った。細々ながら年金額で生活してゆけそうと判断し、就職しないことに決めた。

しかし、働かずに日々をどう過ごすかでまず迷った。参加者としての探鳥会や読書では、時間を持て余すのではないかと自問を繰り返した。体も頭も働かさず、人々との関係も少なくなれば、足腰も弱り、ボケもきて老化が早いだろう。そこで、自分にカセをかけて定例探鳥会をやろうと考えた。自分のためだから、大々的に呼びかけるつもりはない。ただ、一緒に歩いて楽しみたい人には自由に参加をしていただこうと、そこまで考えて、さきに保留していた一件に思い当たった。参加者が楽しんでくださり、愛鳥心を持っていただければ、私なりの社会へのお返しにもなると、いささか欲の深い思惑も生まれたりしたのだった。

早速コース選定に市内を巡って見た。条件として、①危険個所が少ないこと、②トイレがあること、③鳥の種類が多いこと、④野鳥以外の観察にも適していること、⑤市の中心にも近いこと等を考慮した。具体的には、現在の江ヶ室一亀田一若山が最適と判断した。

このコースの特徴は、冬から春にかけてアオバトが見られ、春から夏にかけてはカイツブリ、バン、キジの子育てが観察できることである。鳥以外にはタヌキ、サワガニが見られ、植物ではショウジョウバカマ、タニウツギ、シライトソウ、ササユリ、イチイガシと豊富である。

定例探鳥会のメリットは、ほぼ1年先まで日が決められて都合が付けやすいこと、継続して観察

することから、過去との比較や、環境の変化に伴う種類と個体数の変化等を、おのずと把握できること等があるだろう。反面、異なる環境の鳥が見られないので飽きが来るデメリットもある。

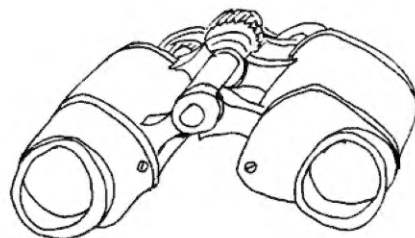
ともかくスタートしたが、後日、日本野鳥の会三重県支部の平日探鳥会に組み入れることとなった。

始めてから2年も経過すると、亀山の参加者の中にも、病気や仕事の都合で出席できなくなった方もある。一方で、桑名や津市の参加者もあり、2班に分けるべきかと考えるほど人数が多いときもある。案内者としてももっとも嬉しいのは、休暇を取ってまで参加してくださる方がいらっしやることである。

自己満足と老化防止のために始めた探鳥会であるが、鳥の行動・色彩・鳴き声等が知的又は美的好奇心を刺激し、木々のたたくまいが心をいやし、行動を促し、友人ができて、結果として、自分自身を含めた老人福祉になっていると自画自賛し、我が田に水を引くのである。

現在探鳥会において、野鳥の美しさ、愛らしさと一生懸命生きている様子等、直接的なことに感動しているが、「生物の多様性」の重要さと、その為には人間の生き方をも変えていかなければと言う内容にまで、まだ至っていない。夢はそこにあるのだが！

退職して3年目を迎えたが、時間を持て余すこともなく、知的好奇心を持続できるのも、入会以降まことに親切にお引き廻しいただき、ご指導いただいているお陰であると、支部長を始め会員の方々に感謝している次第である。



鳥たちの受難

吉居瑞穂

今年、私のフィールドでおこった鳥たちの受難の話です。

第1話

バードウィークのこと。近くの柿畑でコサメビタキが巣作りしているのを見つけました。巣材を運んでは巣の中で座り心地を試しているようなしぐさがとても可愛く、けなげに見えました。春秋の渡りの時期以外、姿を見かけることのない小鳥の巣作りを目撃してドキドキしましたが、同時にこの小鳥のこれからを思うと気が重くなりました。伊勢名産の蓮台寺柿の畑では、これから農薬散布と摘果が始まるのです。どう考えても農薬の被害から逃れられそうにない状況です。杉浦支部長に相談した結果、とても残念なことです。産卵に入る前に巣をとってしまうことにしました。

巣はほとんど完成していて、ウメノキゴケのついた柿の枝そっくりの外観、中はシュロの繊維で精巧に編み上げたようにできていました。仲間5人で巣をとりに行ったときコサメビタキの姿は見当たりませんでした。 「ごめんね、今度はもっと安全なところに作ってね」と心でつぶやきました。

第2話

家の前の電柱で鳴いていたハシブトガラスが、杉の木に巣を作りました。抱卵を始めて数日後、その木が切り倒されてしまいました。理由はお隣の家に枝が伸びてきて、うっとうしいとの苦情があったためだということです。

第3話

山を崩して土を採っている所に、カワセミが巣穴を掘りました。巣穴ができて1週間ほど過ぎた朝、2羽のカワセミを近くの池で見かけました。枯れ木に止まって、水に飛び込んだりしていました。きっとあの巣の主だったと思われますが、そのとき巣穴はパワーショベルのツメでつぶされていたらしいのです。その日の夕方巣穴の近くを通りかかると、その崖は最後の傾斜をつけるために削り取られていました。長らく放ってあった崖が、この時期に突然最後の整地作業に入るなんて思いもかけないことでした。

巣がなくなったこれらの鳥たちは、今年の子育てをどうしたのでしょうか？ 残念ながら確認できていません。

研究報告『Accipiter』

日本野鳥の会栃木県支部発行
1部 1,200円 (送料 240円)
発行の目的は、アマチュア野鳥観察者に発表の場を提供することで、鳥を調べてみようという人を増やしていくことです。

問い合わせ：

〒

TEL FAX
月・木：10～17時
火：10～14時
水・金：10～18時
土：14～18時

支部推薦図書

調査報告書『名古屋市平和公園の鳥類』

発行：日本野鳥の会愛知県支部平和公園鳥類調査グループ
1部 1,000円 (送料240円)
郵便振替 00860-4-11323
平和公園鳥類調査グループ

ブックレット『藤前干潟』

(A5版、23ページ)

発行：藤前干潟を守る会
1冊 300円 (10冊以上まとめてなら1割引)
送料 1冊190円、2～4冊270円、5～8冊390円、9冊以上700円
郵便振替 00840-6-73383
藤前干潟を守る会
生態系や四季の野鳥、生物の名前と特徴を、写真、絵、表などで紹介。
ゴミ埋立の推移や干潟保存運動の経過なども。

屋久島に居を構えるの弁（含宣伝）

水野明紀

昭和57年3月、多度山の東側、岐阜県海津郡南濃町から三重県員弁郡東員町に引っ越してきて12年間、さらに、この度棲み慣れたこの地を離れ、4月には鈴鹿の山を遠く、遙か海をも越えて鹿児島県熊毛郡屋久島町へ住まいを移すことになりました。

三重県では幸せなことに、皆さんいい人ばかりで、本当に良くしていただき、楽しかったことが次から次と思い出されます。

なぜ今屋久島かと言いますと、「しろちどり」8号に紹介していただきましたが、若い頃から私の夢の一つであった、山小屋のオヤジになりたいという事の実現と、一年を通して気候温暖で、沢山の野鳥に取り囲まれた生活ができるということからなりました。目下屋久島の小田波に定員11名という小さなヒュッテを建築中です。1月に取りかかったばかりですので、近くに家を一軒借りての単身赴任生活です。

借家から、歩いて1分の所に平内海中温泉があって、潮の状況によっては朝夕温泉に浸かれます。平内は地名ですが、海中温泉の名の通り、満潮時には海中に没する海岸の岩場に湯船があるだけの、脱衣所も囲いも番台もない男女混浴の露天風呂です。お湯は少しぬるめですが、身体が非常に温まる海水混じりのいい温泉です。もう一つ浸かったことのある尾之間温泉は、石鹸が落ちないのでと勘違いする人がいるほど肌がすべすべして、海中温泉より熱めでやはり良く温まります。

その借家の庭先には、メジロ、ヤマガラ、ウグイスは言うに及ばず、ルリビタキ、サンショウクイ（亜種のリュウキュウサンショウクイで留鳥）、アオジ、ジョウビタキ、コゲラ、ミソサザイがやって来ますし、時折ズアカアオバトが通り抜けていきます。やはり借家から歩いて1分の所にあるハワイを思わせる平内公園周辺には、サシバ、チョウゲンボウが越冬しており、畑にはミヤマホオジロやシロハラなど朝食後の散歩（朝食前に散歩したいのですが、日の出が中部地方より約1時間遅いのでつい寝過ごしてしまいます）で、多いときには40種以上も確認できます。

不思議なことに小笠原の父島で1月1日にウグイスが囀っていたのに、屋久島では3月6日でも地鳴きのみです。また、越冬中のサシバが電線や木の枝でションボリした様子で首をすぼめて止まっています、ワシタカの威厳は全然感じられません。そして、渡りの中継地らしく、ハクセキレイが10羽ほど突然現れては翌日にはもういないということがあったり、3月4日には、それぞれ200羽ほどのマヒワとアトリ（うち1羽は頭が少し黄色っぽくて、翼に2本薄い茶色の線があって、それ以外は全身真っ白）の群が現れ、3月6日までは観察できました。その後はわかりませんが、渡りの途中立ち寄っていく野鳥が多そうで、今後が楽しみです。

ご参考までに、小生が屋久島で確認した野鳥は以下の84種です。

カイツブリ、オミズナギドリ、カツオドリ、ウミウ、ヒメウ、ササゴイ、アマギ、チョウチキ、クロキ、マカモ、シゴ、ハチマ、トビ、オカ、ウミ、ハタカ、ノスリ、サシバ、ハヤブサ、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウ、キジ、ヒクケ、コトドリ、タゲリ、トウネ、ウスラシキ、タカブシキ、イツギ、ヤマシキ、オウシキ、ツバメチドリ、セグロカモメ、ウミネコ、カラスバト、キジバト、アオバト、ズアカアオバト、ホトキス、アオバズク、アマツバメ、アオケラ、コケラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンスイ、クビハリ、サンショウクイ、(リュウキュウサンショウクイ)、ヒョドリ、モズ、カカラス、ミソサザイ、コマドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ(ハチジョウツグミとの中間型)、ヤブサメ、ウグイス、セッカ、ヒカラ、ヤマガラ、メジロ、ホシロ、ミヤマホシロ、アオジ、クロジ、アトリ、カラヒワ、マヒワ、ウツ(アカツ)、イカル、シメ、スズメ、コムドリ、カケス、ハシボソカラス、ハシバト、ガラス

5, 6, 9, 10及び11月はまだ屋久島へ行ってませんし、島内をくまなく見てまわったわけではありませんので、まだまだ種類は増えると思います。

以上、私の近況と屋久島における野鳥のご報告をしました。三重野鳥の会以来、三重県支部の方々には大変お世話になりました。あらためてお礼申し上げます。皆様方のご健康とご活躍をお祈りするとともに、今後は、屋久島で皆様とお会いできることを楽しみにお待ちしております。

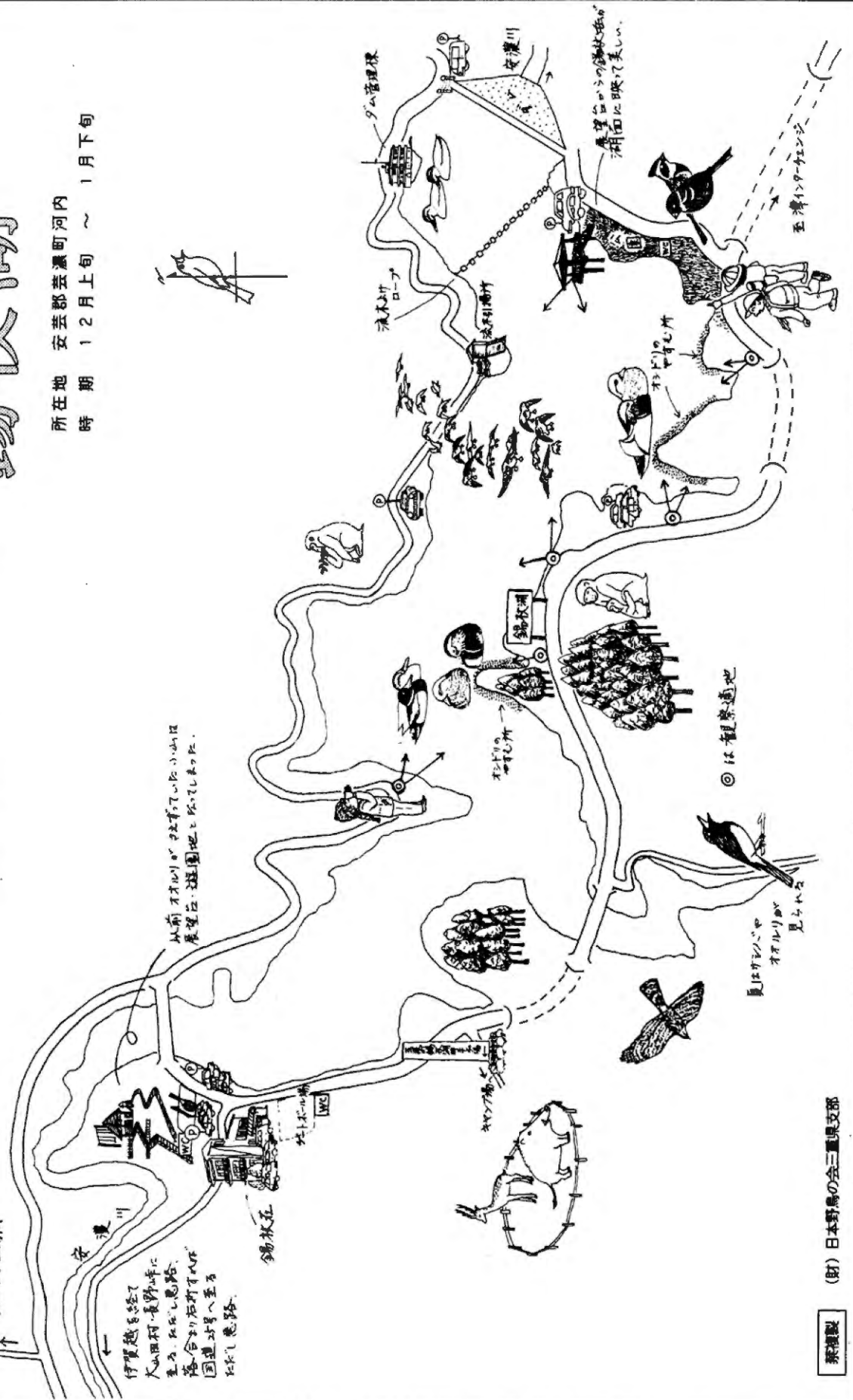
探鳥地マップ (2) 錫杖湖

所在地 安芸郡芸濃町河内
時期 12月上旬 ~ 1月下旬

錫杖の産山口
頂上まで2時間

伊賀越前を全て
大心胆村・長野が峰に
なる。石のしるし
落合より石打有入
園道は号へ至る
石のしるし

以前「石のしるし」が
産山に遊園地と
なっていた。



探鳥記 (財) 日本野鳥の会三重県支部

錫杖湖

1/25,000 地形図 椋本 平松

公共交通機関なし（但し、三交バス津新町駅前
より市場行き、終点下車約4km）

地図参照 駐車場あり

安濃川上流の渓谷をせき止めたダム湖。錫杖湖は三重県で最も多くのオシドリが越冬する場所です。12月から2月まで約50～100羽のオシドリと100～150羽のマガモが見られます。オシドリは、右岸の入り組んだ岸辺のしげみで休んでいることが多いので、注意しながら捜してください。大抵オシドリの方が先に人間を見つけて、鳴きながら飛び出します。マガモと違って開けた水面をあまり好まず、すぐに岸辺のしげみにかくれようとします。マガモは中央の水面に長く留まります。カルガモはダムに近い水面にいます。ダム周囲の斜面には、ニホンザルの群が出没することもあります。

湖の周囲は、ほとんど植林地であり、冬季以外はあまり多くの鳥がいない。

【今までに観察された主な鳥】

カワウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、ホシハジロ、カワアイサ、カワセミミヤマホオジロ、ベニマシコ、オオルリ、サシバ。〈ヤマセミ、カワガラス、湖より上流や下流の渓谷で〉

☆冬季は風が強いので、防寒には特に注意して下さい。

☆湖畔の錫杖湖水荘〈TEL 0592-65-2019〉は宿泊と食事ができます。売店は椋本まで行かないとありませんので、注意して下さい。

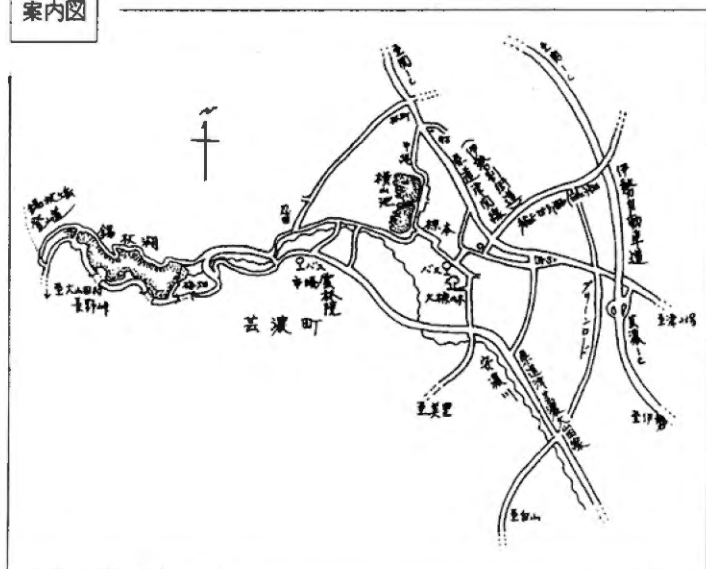
☆トイレは展望台の近くにあります。

☆芸濃町キャンプ場は台風の影響のため閉鎖されているが、シカとイノシシが飼われており、間近で観察出来ます。

☆ダムより約3km下流には長徳寺があり龍王桜〈4月中下旬開花〉が有名です。又、門前の渓谷も規模は小さいがすばらしい。

☆錫杖岳〈676m〉は、湖左岸の登山口から約2時間弱で登頂出来る。頂上からの眺めがすばらしい。但し、冬季は初心者におすすめできません。

案内図



錫杖湖でのガンカモ類の記録

(シーズン毎の最高観察数)

シーズン	オシドリ	マガモ	カルガモ
1988 89	0	0	18
1989 90	12	168	44
1990 91	22	181	99
1991 92	145	138	48
1992 93	115	190	28
	ホシハジロ	4(1991 92)	
	トモエガモ	1(1992 93)	

前号の続きです。4月15日、津市での入門探鳥会が舞台です。

3 声を聞きながら

春ののどかな堤防を歩いていくのは気持ちがよい。潮風もさわやかに吹いてきます。さっきの場所よりは静かなところへ来たので、しばらくじっとして、鳥の声に耳を傾けます。

ポイント：五官を使って観察しましょう

参加者の一人が川とは反対側に鳥の声を聞きつけました。チツチツという声です。さっそくリーダーが姿を捉えます。

「この鳥の特徴は尾にあります。観察してみましょう。」

セキレイだという声上がる。

「これはハクセキレイです。よく似たのにセグロセキレイというのがありますから気を付けましょう。」

すると、参加者が、反対側の建物のところにセグロセキレイがいるという。

リーダー「その違いは顔にあります。白い顔に黒い線のあるのがハクセキレイ、黒い顔に白い線のあるのがセグロセキレイです。これはハクセキレイのようです。」盛んに移動するハクセキレイを苦労して見ていると、今度はセグロセキレイも姿を見せ、2種類が同時に視野に入りました。その違いをじっくり観察します。リーダー「見た目だけでなく声でも区別はつきますから、五官を使うというのは大事なことです。ちなみに、セグロセキレイは日本でしか見ることができません。このように、ある一定の地域だけに分布する種を固有種といいます。」

日本固有種などといわれると、なんだかとても大切な鳥であるような気がして、名前もすぐに覚えてしまいます。

ポイント：ちょっとしたウンチクも記憶の助け。

4 河口の近くで

さらに河口の方へ近づくと、干潟にハマシギの群がいました。

リーダー「これは中級でも観察が難しい。シギ類は季節による羽色の変化が大きいのです。また、

個体差もかなりあります。識別はかなりマニアックになってしまいます。」

よく見ると、頭のグレーなのと茶色いのが混じっています。種の見分けも難しそう。今のところは姿を眺めて楽しむのがいいようです。

ポイント：シギ・チドリは少し経験を積んでから。

リーダーから、旅鳥や渡り鳥についての簡単な説明がありました。

「こうした鳥の習性は、次回以降詳しく話しましょう。」

その時、ヒドリガモ2羽が近くへ舞い降りました。番（つがい）です。カモ類は体が大きいし、動きもゆったりしていますので、シギよりは観察がしやすそうです。さっそくスケッチします。

リーダー「カモの中ではヒドリガモは数の多い方です。種を見分けるコツはなるべくたくさんいる種類から覚えることです。すると、消去法を使っで見分けができるようになります。」

ポイント：普通種から確実に覚えていこう。

5 まとめ

終了予定時刻が近づいたので、ハマシギの群舞を楽しみながらまとめを行いました。まず、今日の感想を話し合いましたが、その中で地元の方から、「ユリカモメの頭が黒くなってきたのを見ると、春を感じます。」という言葉が出ました。リーダー「継続して観察されているので、こういうことを感じるすることができます。とても重要なことです。」

簡単に鳥合わせをした後、リーダーがつぎのようにまとめ、お開きとなりました。

「バードウォッチングは慣れです。回数を重ね、探鳥会でベテランに聞いたり、本で調べたりするのも重要です。今日の探鳥会はその参考ということでご理解ください。次回は、鳥の暮らしについて考えてみたいと思います。」

ポイント：観察を続け経験を積み重ねよう。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

6月に広島市の方から次のようなお手紙をいただきました。シロチドリの繁殖地を確保するための三重県支部のささやかな活動に対し、本部からの支部事業補助金の支給、そして遠方の方からの賛同のお手紙、本当に嬉しく思います。

これからもみんなで協力して、シロチドリなどにとっての住み良い環境づくりに努力していきましょう。
(運営事務局)

本部発行「野鳥」誌により、貴支部がシロチドリの保護に関する活動を行っておられることを知りました。

—中略—

私は、本部に入会して19年になるのですが、長い間特に干潟の鳥を好んで観察してきました。シロチドリこそは、干潟を代表する野鳥であり、シロチドリが安心して暮らせるところなら、ほかのすべてのシギ・チドリはもちろん、水辺で生活する野鳥たちが安心して暮らせると思います。

今、私は、釣り糸や釣り針から少しでもシロチ

ドリを守りたいと思い、チラシを作って、小学校などに掲示してもらおうようにするために、作業をすすめているところです。(運営事務局註：50部送っていただきました。)

三重県の県の鳥がシロチドリで、支部報も「しろちどり」とは、ほんとうにうらやましい。

—中略—

シロチドリのことや、シロチドリを少しでも助ける方法を勉強させていただきたいと、心から思っておりますので、どうか貴支部の一員に加えていただけますよう、心からお願い申し上げます。

鳥たちの大敵 テグスを回収

日本野鳥の会県支部



回収したテグスを持つ支部会員—松阪港で

鳥たちの大敵・テグスを一掃しよう。愛鳥週間期間中の十四日、日本野鳥の会県支部(杉浦地区支部)が、海岸に捨てられたテグス(釣り糸)の回収作業を行った。支部では、この日も県内各地の釣り船のえ

愛鳥週間
松阪港と四日市の海岸
40分で2キロメートル集める

さる5月14日、今年のパードウィークの支部行事として、「5・14テグスをほからないで！探鳥会」が四日市と松阪の二会場で開催されました。残念ながらあいにくの天候となり、探鳥会そのものは中止となりましたが、PR行動やテグス拾い、あるいは有志による探鳥会が行われました。以下両会場からの報告です。

四日市から

雨天のため探鳥会は中止し、テグスの回収と釣り人へのPRをしましたが、次第に大雨になり、数人いた釣り人も早々に引き上げ、結局チラシを渡したのは1人にとどまりました。

テグス回収は磯津漁港の西側突堤と、鈴鹿川寄り数百メートルの磯で行いました。10時10分から11時10分まで正味一時間で、105グラム(1グラムあたり13メートル換算で1365メートル)のテグスを回収しました。テグスの被害鳥や落鳥は視認しませんでした。——参加者7名。(高 和義)

松阪から

小雨でしたが、たくさんの参加者がありましたので決行しました。11時まで愛宕川河口で探鳥をし、その後松阪港へ行きテグスを拾いました。320グラムもありました。

雨にもかかわらずたくさん拾ってもらい、皆様ありがとうございました。——参加者13名。観察した野鳥28種。(中村洋子)

5月12日付 毎日新聞

野鳥情報

多田弘一 (一志郡嬉野町)

◎雲出川河口のミヤコドリ

昨秋10月8日より、尾畑玲子さんが熱心に観察されていた朝明川河口のミヤコドリ4羽は、雲出川河口にて越冬したらしい。

当地で観察を続けている愛鳥家によると「とうとう今年は5羽が越冬した」とのこと。私は、今春4月24日、一志郡三雲町五主の雲出川河口中州にて4羽を観察し記録写真を撮影。1羽は左翼が外傷後の変形治癒状態であるが力強く飛翔可能。もう1羽は下嘴の先3分の1が折れていた。4月30日までは4羽を観察。5月13日より18日まで3羽を観察。5月19日より2羽に減り、その後6月22日まで観察を続けている。6月14日は大雨の中、約30mの近距離で観察。やはり、残っているのは左翼と下嘴にハンディを持った2羽であった。すでに三重県での滞在期間は8ヶ月間が過ぎた。6月22日現在、ミヤコドリを確認した日は17日、のべ観察数42羽。今後、どのような経過をとるか観察を続けたい。

◎今春のシマアジの追加記録

4月4日、一志郡香良洲町の養魚池にてシマアジ1♂を観察。本誌第9号に報告したが、さらに一志郡三雲町曾原新田の養魚池にて、4月25日、26日の両日、3♂1♀、4月27日に5♂4♀を観察し記録写真を撮影。コガモの群の中にいる場合は♀の識別は容易。4月29日には、すでにコガモ達と共に北へ飛び去っていた。

◎冬鳥達の終認記録

ツリスガラ	約30	4月27日	一志郡三雲町笠松アシ原
シロハラ	約20	4月30日	一志郡三雲町喜多村新田エノキ
アオジ	1	5月2日	一志郡嬉野町中川自宅庭
ツグミ	1	5月13日	一志郡三雲町笠松あぜ道

◎残留ガモの終認

キンクロハジロ	2♀	5月24日	松阪市浦新田養魚池
ヒドリガモ	1♂	6月1日	一志郡三雲町五主池
ホシハジロ	1♂	6月1日	一志郡三雲町五主池
スズガモ	1♂	6月9日	一志郡三雲町五主池
ホシハジロ	1♂	6月19日	松阪市小阿坂町農業用ため池
オナガガモ	1♀	6月21日	一志郡三雲町五主池 ※左翼外傷
キンクロハジロ	1♂	6月21日	一志郡三雲町五主池
ウミアイサ	1♂1♀	6月21日	一志郡三雲町五主雲出川河口



◎シギ・チドリ類、今春の初認

ツルシギ	10	4月5日	一志郡三雲町曾原新田養魚池
チュウシャクシギ	1	4月6日	津市島崎町安濃川河口
アオアシシギ	8	4月7日	一志郡三雲町曾原新田
ムナグロ	16	4月13日	一志郡嬉野町須賀の水田
キアシシギ	2	4月24日	一志郡三雲町五主雲出川河口
ホウロクシギ	1	4月25日	一志郡三雲町五主海岸

野鳥情報

- オオソリハシシギ1 4月30日 一志郡三雲町五主雲出川河口
- メダイチドリ5 5月7日 一志郡三雲町星合香良洲大橋下流
- ソリハシシギ3 5月17日 一志郡三雲町五主雲出川河口
- オグロシギ26 5月17日 一志郡三雲町曾原新田の水田
- キョウジョシギ約30 5月18日 一志郡香良洲町雲出川河口
- タカブシギ1 5月19日 一志郡三雲町笠松の水田

※シギの観察は初体験のシーズン。見落としで随分と初認日が遅いかもかもしれない。

◎シギ類、今春の終認

- オグロシギ3 5月30日 一志郡三雲町曾原新田の水田
- ホウロクシギ1 6月13日、一志郡三雲町五主雲出川河口
- キアシシギ3 6月14日 一志郡三雲町五主雲出川河口
- チュウシャクシギ11 6月22日 松阪市高町金剛川下流

◎県下で比較的珍しい種の記録

- ニューナイズメ2 3月22日 一志郡嬉野町中川の電線
- コアオアシシギ1 5月30日 一志郡三雲町五主の雲出川河口
- シロハラホオジロ1♀ 6月7日 一志郡白山町伊勢見（青山高原）
- ハリモモチウシャクシギ1 6月22日 松阪市松崎浦町三渡川河口

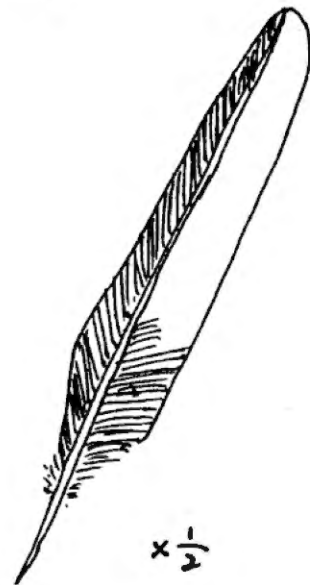
最後になりましたが、いつもご丁寧な指導を賜り、シマアジの追加記録とミヤコドリの本誌野鳥情報への発表をお勧め頂き、さらにコアオアシシギの写真同定をして頂きました本支部顧問の橋本太郎先生に深謝します。

木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会の記録

藤田克三

科	種	月												
		3月27日	4月24日	5月22日	6月26日	7月24日	8月29日	9月25日	10月23日	11月27日	12月25日	1月22日	2月26日	
カイツブリ	カイツブリ													
ウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ゴイサギ	○			○				○	○	○			
	アマサギ			○				○						
	ダイサギ		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	チュウサギ							○	○	○	○	○	○	○
	コサギ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ガン・カモ	アオサギ	○	○	○										
	カルガモ	○	○	○	○	○	○							
	コガモ	○	○							○	○	○	○	○
	アメリカコガモ	○												
	オカヨシガモ	○			○						○	○	○	
	ヒドリガモ								○			○	○	
	ハシビロガモ										○	○	○	○
	スズガモ			○	○							○	○	○
	ホシハジロ	○			○		○					○	○	○
キンクロハジロ	○				○						○	○	○	
タカ	ミサゴ										○			
	ハチクマ							○						
	トビ	○						○	○	○	○			○
	ノスリ	○								○	○	○	○	○
	ハイイロチュウヒ	○												
	チュウヒ	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
	オオタカ	○									○		○	
	ハイタカ													

科	種	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
		日	27	24	22	26	24	29	25	23	27	25	22	26
ハヤブサ	ハヤブサ							○	○					○
	コチョウゲンボウ チョウゲンボウ								○	○	○	○	○	○
キジ	キジ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クイナ	バン			○		○	○	○	○					
チドリ	コチドリ		○		○	○	○	○	○					
	シロチドリ				○	○	○	○	○					
	ムナグロ							○	○					
	ケリ		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
シギ	タゲリ		○								○	○	○	○
	エリマキシギ		○								○	○	○	○
	オオハシシギ		○								○	○	○	○
	コアオアシシギ							○		○				
	アオアシシギ								○	○				
	クサシギ			○					○	○				
	タカブシギ							○	○	○				
	イソシギ		○	○	○	○	○		○	○				○
	ソリハシシギ				○									
	チュウシャクシギ			○	○									
タシギ		○					○	○	○				○	
ツバメチドリ	ツバメチドリ					○								
カモメ	ユリカモメ			○							○			○
	オオセグロカモメ													○
	カモメ													○
コアジサシ			○	○										
ハト	キジバト		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フクロウ	コミミズク												○	
カワセミ	カワセミ							○					○	
ヒバリ	ヒバリ		○	○	○									
ツバメ	ショウドウツバメ							○	○	○				
	ツバメ			○	○	○	○	○	○	○				
	イワツバメ			○				○						
セキレイ	キセキレイ							○	○	○				
	ハクセキレイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セグロセキレイ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	タヒバリ		○								○	○	○	○
ヒヨドリ	ヒヨドリ		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
モズ	モズ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヒタキ	ジョウビタキ		○											○
	ノビタキ								○					○
	アカハラ		○											○
	ツグミ		○	○								○	○	○
	オオヨシキリ				○	○	○							
	ウグイス		○	○								○		
	セッカ			○	○	○	○	○						
	オオルリ			○										
コサメビタキ								○						
シジュウカラ	シジュウカラ									○	○		○	
ツリスガラ	ツリスガラ			○										
メジロ	メジロ			○					○					
ホオジロ	ホオジロ										○	○	○	○
	アオジ										○	○	○	○
	オオジュリン		○										○	○
アトリ	カワラヒワ		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
ハタオリドリ	スズメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ムクドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カラス	ハシボソガラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハシブトガラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計30科	82種		38	35	31	26	28	37	39	38	39	42	42	41
参加人員	305人		21	30	19	28	24	24	20	30	46	28	7	28



× 1/2

野鳥情報

小松康成 (津市)

◎1995年5月28日 椿大社横の河原 イカル2羽(番?) 水浴中を確認。水浴後、林の中へ姿を消しました。

◎同上 近くの木でヤマガラのヒナ(巣立ち後数日のもの)に親がエサを与えていた。ヒナはまだヤマガラ独特の色になっていなかった。

○神社の森の観察会（伊勢市豊川町外宮）

- ・日 時：1995年4月1日（土）13:00～14:00 晴
- ・担 当：杉浦邦彦、吉居瑞穂
- ・参加者：8名
- ・観察種：17種

気温が低いせいか、冬鳥のカモ類が多く、シロハラも観察された。スズメが繁殖に入ったのか個体数が少なかった。ドバトが餌をもらえるので増加傾向にある。個体は黒色型が目立つ。ヒサカキ、アセビ、ハナノキ、アオキ、ツバキ、モチノキ、イロハモミジ、ソメイヨシノが開花。ウバメガシ、アオキ、ミミズバイ、アラカシ、ツツジが新芽を出していた。（杉浦）

○大湊探鳥会（伊勢市大湊町）

- ・日 時：1995年4月21日（金）9:15～12:00 晴
- ・担 当：吉居瑞穂
- ・参加者：8名
- ・観察種：41種

風も弱く絶好の日和でしたが、干潮まで時間があつたのでシギ・チドリはあまり見られませんでした。河口対岸のコガモの群の中に「あれ、妙に肩斑が白いよ」と、吉居さんが見つけて下さったのがシマアジで皆興奮。また、大湊名物のミサゴもたっぷり勇姿を見せつけてくれ、北帰行直前のカモたちの識別談義もにぎやかで、なかなか楽しんでいただけたと思います。

昨年カイツブリが繁殖した池が殆ど埋められてしまいました。今は田畑も多くのどかな大湊西側も、いずれ全て宅地化してしまうのでしょうか…。翌日のことですが、干潟にはたくさんのハマシギに混じって、ダイゼン5羽、チュウシャクシギ、オオソリハシシギが入り、池にはキンクロハジロが入っていました。（小坂里香）

○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会（愛知県弥富町）

- ・日 時：1995年4月23日（日）10:00～12:00 雨
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：12名
- ・観察種：38種

前日から雨。ウラメシイ探鳥会でした。野鳥園

の方も探鳥会が園内であったようでした。南の国からの使者ツバメも見られ、私の住む団地でもコシアカツバメが、南の国からほぼ同じ時期に帰ってきました。なお、コシアカツバメはツバメより約1ヶ月遅く来るのですが、同時期に来たということは、ツバメの渡りが遅かったのではないのでしょうか。

○南部丘陵公園探鳥会（四日市市泊村）

- ・日 時：1995年4月27日（木）9:30～11:30 晴
- ・担 当：木村京子、高 和義
- ・参加者：11名
- ・観察種：21+種

お天気に恵まれ、新緑を楽しみながらの探鳥ができました。テーマが「さえずり」だったので、鳥の声（地鳴きも含む）を自分でカタカナに置きかえて記録してもらいました。センダイムシクイやメジロはよくさえずってくれましたが、メジロのさえずりをメモするのはなかなか大変でした。とてもよくさえずっていたのですが、種名がわからない鳥がいて、みんなでしばらく聞き入っていました。（木村）

○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1995年4月29日（土）9:00～12:00 曇
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：25名
- ・観察種：20種

朝からどんよりした天候でしたが、オオルリがよく美しい鳴き声で迎えてくれました。この時期、ウグイスの鳴き声が聞かれるのですが、今日は聞くことができなかったのが残念でした。開催に際しては多度町教育委員会の計らいで、多度町の広報へ掲載していただきました。

○金剛證寺探鳥会（伊勢市朝熊町）

- ・日 時：1995年5月7日（日）9:00～14:00 晴
- ・担 当：世古口有司、西村幹和
- ・参加者：29名
- ・観察種：21種

久しぶりの五月晴れの中、いつもと違った方法でということから、ビンゴゲームを使用した、グ

ーム感覚いっぱいの探鳥会を実施しました。けっこう難しかったですネ！（西村）

○愛宕川・櫛田川シギ・チドリ探鳥会（松阪市）

- ・日 時：1995年5月11日（木）9:30～11:30 曇
- ・担 当：中村洋子、宮田たつ
- ・参加者：3名
- ・観察種：29種

8時頃まで雨が降り今日はダメかな？と思っ
ていると止み、ホッとしました。春のシギ・チドリ
は夏羽になっているので色がきれいに付きます。
特にオオソリハシシギは頬から腹にかけて赤くなっ
ているのがよくわかります。また、ハマシギは腹
が黒くなり、冬羽との違いがすぐ分かり不思議な
感じがしました。（中村）

○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園付近）

- ・日 時：1995年5月17日（水）9:20～12:00 曇
時々小雨
- ・担 当：伊藤多紀子、榎原 泰
- ・参加者：13名
- ・観察種：28種

神社の森でエナガの小群に出会い、子虫を食べ
ている姿をゆっくり観察しました。また、田園に
出るとキジの雄（2羽）が水田や畦道をゆっくり
ゆっくり餌を拾う姿を観察（美しい姿に釘付け）。
また、ワシタカ類にも出会えた。残念ながら今日
のテーマ「子育ての観察」が見られなかった。（伊
藤）

○養命の滝探鳥会（伊勢市前山町）

- ・日 時：1995年5月19日（金）9:10～11:50 晴
- ・担 当：吉居瑞穂、林 淳子、西村 泉
- ・参加者：16名
- ・観察種：21種

養命の滝へのアプローチは山村風景から雑木に
囲まれた山道へと変化してゆくが、その風景が突
然自動車道によって断ち切られる。そのオーバ
ブリッジの周辺でいちばんたくさん鳥が見られた
のは皮肉か？ サシバもハチクマも頭上を飛び、
ハチクマは何度も何度もディスプレイを見せてく
れた。ニホンリスも出て、みんな大喜び。（吉居）

○コノハズクの声を探こう（美杉村川上三重大 学演習林）

- ・日 時：1995年5月20日（土）16:30～20:30 曇
- ・担 当：谷本勢津雄、坂元伸治
- ・参加者：12名
- ・観察種：14種

夕方なのにオオルリがとてもよい声でさえずっ
ていた。この声は何度聞いても聞きほれます。今
日の見どころのコノハズクは、最初は遠くで鳴い
ていたが、少ししたら声が大きくなり、「ブッポオ
ソオ」とよく聞こえました。一同大満足でした。
（中村洋子）

※1泊2日の予定でしたが、宿舎の都合で宿泊
せず20日のみ行われました。

○シロチドリ探鳥会（安芸郡河芸町田中川河口）

- ・日 時：1995年5月28日（日）10:00～12:00 晴
- ・担 当：平井正志
- ・参加者：13名
- ・観察種：15種

シロチドリ1巣が確認できた。サギのコロニー
では大中小のサギの見分け、チュウサギの青い卵
を見た。

○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会（愛知県弥富 町）

- ・日 時：1995年5月28日（日）10:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：24名
- ・観察種：31種

久しぶりの晴の日曜日、田や畦道にチュウシャ
クシギやキジがのんびりとひなたぼっこし、いか
にも鍋田らしい風景でした。

○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町、亀田町）

- ・日 時：1995年6月2日（金）9:00～12:00 曇
- ・担 当：榎原 泰
- ・参加者：10名
- ・観察種：27種

昨日の下見でオオルリが一声も鳴かなかったの
で、表題とした「オオルリを探そう」を取り消し
た。代わりにオオヨシキリの鳴き方十分聞くこと
にした。しかし、オオヨシキリの声は、水を揚げ
るポンプの音で十分聞けなかった。穴うめだった
のか、南側の谷へ出たところで遠くにオオルリが
鳴いた。

事務局からのお知らせ

☆7月の研修会「バードウォッチング案内人入門」を企画部の皆さんの努力と協力で無事(?)終了し、ホッとしました。初めて本部より講師を招いて行うだけに、正直言って緊張し続けていました。もう少しで倒れるかと思いましたが、何とか若干体重が減っただけで済みました。(もっと減ってもいいという声が聞こえてきますが。)この研修会の評価は、研修に参加された方々が、今後探鳥会でいかに活躍して下さるかにかかっています。皆さん、ガンバッテネ!(プレッシャーをかけるわけではありませんけど。)

☆3月と5月のシロチドリ繁殖地保護のための看板と柵の設置、そして7月の柵の撤去と、ご協力くださった皆さん、どうもありがとうございました。シロチドリ保護実行委員会の方々、どうもご苦労さまでした。こういう活動は今後には是非つなげていきたいですね。

☆三重県支部報「しろちどり」を皆さんにお届けする封筒が、今回から変わりました。封筒から「シロチドリを守ろう!」の文字が消えても、シロチドリのことを忘れないでください。そして、シロチドリを含め、地球の未来は私たちの行動や考え方にかかっていることを、もう一度認識していただきたいと思いません。利便性ばかり追求していないか、むだな消費ばかりしていないか、今の生活様式を本気で見直してみてください。(木村)

日本野鳥の会本部の移転に伴い電話番号が変わっています。『野鳥』誌でご確認ください。

北勢地区からのお知らせ

9月9日(第2土曜日)の地区会は、下記の通り探鳥会を行います。

《どんなシギ・チドリに会えるかな!》

日時:9月9日(土)9時30分~12時頃 場所:鈴鹿川河口
集合:磯津東町バス停 雨天中止
問い合わせ先:濱中勝彦 TEL

9号の訂正とお知らせ (編集部)

やってしまいました! 「しろちどり」第9号の4ページ役員構成表の保護部長・武田恵正さんは武田恵世さんに、同じ表や7ページで地区長となっているのは地区代表に訂正してください。6ページ、木村京子さんの肩書きは事務局長です。8ページ、左の下から7行目「するとよう」は「するとよいと」。11ページ、ものさし鳥の鳥名ハシブトガラスはハシボソガラスでした。お詫びして、訂正させていただきます。

次号の野鳥情報は冬鳥の初認特集を企画しました。県下各地からの情報を募ります。また、会員のページへの投稿も募集しています。お気軽にどうぞ。いずれも締め切りは10月末です。

編集後記

今号も文字ばかりの読みにくいものになってしまいました。おまけに、いくつかの原稿が掲載できませんでした。申し訳ありません。探鳥会報告もかなり積み残しています。次号からはもう少し考えますのでご支援の程よろしくお願い申し上げます。(せ)

しろちどり第10号

1995年8月発行

表紙絵 平井正志 題字 濱田 稔

編集 世古口有司 〒

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館 印刷 〒510-13 三重郡菟野町田口1903-3